大阪市教

2023年 6月1日
VOL. 603
（一部30円。 購読料は組合費に含む）

第67回大阪母親大会
記念講演 井上麻矢さん
子どもたちに平和を
▶6月17日 ▶クレオ大阪中央

発行 大阪市学校園教職員組合 大阪市中央区法円坂1－1－35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700 https://osaka-shikyo.org/
FAX 6910-7990 E-mail o-sikyo1@sea.plala.or.jp

話をすることでがんばれる 組合があるから 勤務条件改善

大阪市教定期大会

第35回大阪市教定期大会が5月20日に行われ、23年度の「とりくみ」が可決されました。支部や専門部から14人（うち青年9人）が討論に参加し、活発な議論が行われました。

「感想 兼 今の怒り用紙」に「教員の立場と違う、事務職の方や栄養教職員の方のお話を聞くことが学びにつながる」「討論を聞き、発言する大切さ、言い続け要求することの大切さを感じる、それができるのは組合があってのこと」との感想が寄せられました。

港支部の青年は、組合や勤労協での学習で様々な立場で働く人と出会えたことで、立場や思想を超えて自分自身の人生を客観的に見つめることの重要性を強調。次世代へ組合運動を継承するには、「熱意だけでは伝わらない。物事、運動の本質を粘り強く相手に伝え、理解してもらうことが大切だ」と述べました。

城北支部の3年目の青年は、目の前にいる子どもたちは本当にかわいいし、やりがいもある。しかし、人事考課制度の圧力の中で、本当に自分自身が実践したいことは何か？忙しさから、自分自身も子どもを型にはめていないか？自問自答を繰り返す毎日。軍事費が増大しているのに、教育予算は減らされる矛盾。この状況でも「組合の先輩教職員と話をすることで頑張れる、コミュニケーションの輪を広げ、自分自身のことも大切にしつつ何度悩んでもこの仕事を続けていく」と発言しました。

北大阪の青年は、業務の多忙化で超過勤務が異常に多いことを報告。4月は学級経営や授業研究に全力を注ぎたい時期。しかし、すくすくウォッチや全国学力テスト、体力アクションプランの準備に時間を割かれる。「数値のために教育をしているわけではない」と教育の根本を見つめなおす必要性を問いかけました。

子どもと保護者の願い 平和と命を守る

西大阪の青年は昨年教採突破講座を受講。組合の方の丁寧な対応で、合格を勝ち取ることができました。「その感謝の気持ち、将来教員を目指す人の役に立ちたい」「長時間労働、部活動、教諭だけでなく講師も含めた処遇など、教員の勤務環境を改善したい」と組合加入。また、戦争や人権の問題についても新しい知識を獲得して、正しく訴えていきたいと決意を語りました。

わくわくひろば 女性も男性も

女性部は、ママ友会議の開催が30回を迎えたことを好機に「わくわくひろば」へと名称を変更。子育てしながら働くすべての教職員の要求に応える活動を今後も継続し、権限移譲に伴い後退させられた勤務条件の回復を中心に管理職によるパワハラやマタハラの問題や不妊治療についての制度改善も求めていくと述べました。

事務職員部は共同学校事務室について発言。表向きは教員の負担軽減ですが、会議の増加で自校をあけることが増え、自校業務が後回しとなり、そのつけが教員や子どもに及ぶと危惧していると述べました。

障害児教育部は、文科省が22年の4月27日に発出した「通知」について、特別支援学級の入級への制限、そして教員削減が目的だと主張。学校での管理と競争が進められる中、過度の自己選択・自己責任が迫られ、生きづらさを抱える我が子を守りたい一心で障害児教育、特別支援教育につながろうとした保護者の切なる思いが、特別支援学級の在籍増として現れてきていると分析しました。

「文科省は個々に応じた支援の門戸を狭め、締め出すのではなく教育環境整備こそを推し進めるべき」だと。「学校は社会は、子どもの命と暮らしを守るものとなり得たか」？と。おそらく公共が担う責任を放棄し、見せかけのパフォーマンス政治の現状では不可能。

大阪市教は子ども、保護者の願い、そして平和と命を守る政治を願う市民の本当の声を拠り所に、粘り強く、闘っていこうと大きく呼びかけました。

米軍・自衛隊戦争準備 維新 核使用旗振り

春の憲法大学習会が5月27日に開かれ、日本平和委員会事務局長の千坂純さんが講演「『安保3文書』に基づく戦争する自衛隊の姿―今こそ、憲法をいかした平和を」を行いました。

G7広島の日米首脳会談（5月18日）で米国の核使用態勢強化と日本の大軍拡推進が再確認され、「専守防衛」をにじり米軍指揮下での先制攻撃、ミサイル配備、自衛隊基地の「強靭化」計画が進み全面的な「戦争国家」づくりが強行されています。

石垣市議会が「自ら戦争状態を引き起こすような反撃能力をもつ長射程ミサイルを石垣島に配備することを到底容認することはできない」との意見書、沖縄県が「沖縄が再び戦場になることにつながる南西地域へのミサイル配備など軍事力による抑止ではなく、対話と外交」と決議しました。

日本維新の会が「核共有による防衛力の強化」、攻撃対象に「司令部、通信施設、レーダー等」を含む、日米同盟調整の「共同運用調整所を常設化し」としていることを厳しく批判しました。

夏季手当2・2月 休暇半日取得可 要求

6/30

市労組連は5月25日夏季要求書の団体交渉を行いました。

市当局は、夏季手当2・2月（期末手当1・2月、勤勉手当1月を原資）を6月30日支給と回答しました。再任用の職員は1・15月（期末0・675、勤勉0・475）。勤勉手当は人事考課の相対区分、第1から第3区分は割増支給、第4・5区分は0・938から0・850。

23春闘は賃上げ6千円台を超え23年ぶりの引上げとなっており（全労連調べ）、民間企業では「インフレ手当」等が支給されています。市労組連は人事委員会勧告待ちではなく、3月プラス7万6千円の支給を求めました。また、職員の夏季休暇半日取得を可能とすることを求めましたが応えませんでした。会計年度任用職員の勤勉手当支給を可能とする地方自治法の一部を改正する法律が23年5月公布（24年4月施行）されたもとで、月例給引き下げ無しの勤勉手当支給を速やかに支給することを求めました。

人事院総裁宛て「大幅賃上げを求める署名」を広げましょう。

物価高騰から生活を守る 大幅賃上げを求める署名

仲間が増えた！

組合の大切さを実感 大教済を組合加入に

A分会では、採用2年目の青年に採用時から大教済の加入を勧めていました。「長く勤めると退職時に掛金が全部返ってくるので、お得ですよ」という呼びかけに応えて加入しました。「大教済加入を組合への加入につなげたいです」と意欲的な報告がありました。

大会での提案でも紹介しましたが、組合費について、「私は何もできませんが、動いてくださる支部や本部のみなさんが活動する資金になったら喜んで払います」と、うれしい発言がありました。また、組合の大切さを実感されている発言が多くあり、大変励まされました。さあ、これから「あなたの周りでまず1人、組合員を増やしましょう！」

教え子を再び戦場に送るな！